

校長室の窓から

岡崎市立常磐小学校
校長 近藤久美子

芸術の秋

先週の昼休みに、4年生の子たちが作った俳句を見せてくれました。なかなかよくできているので紹介をします。

俳句は、17音の中に自分の感動した場面を表現するものです。短い文の中でどんな言葉を使ったら、表したい美しさや楽しさが伝わるのか考えてみましょう。

3年生以上の子たちには、秋の季語の例を載せたプリントを配付しておきました。目に映るもの、耳で聞いたこと、その場の様子が、俳句を読んだ人の脳裏にうかぶような俳句を作ってみてください。3句ほどできたら、「あのねBOX」に入れください。



秋祭り みこしをかつき わっしょいわっしょい さんまさん みながらたべる さんまかな 楠本 菜月	どんぐりが 頭におちて 上を見る 秋の日に スポーツしようか やめようか 山下 惺羽	どんぐりが 坂をころころ かけっこだ 岩山に ちくちく松の木 松ぼっくり 杉浦 光希	土曜日に 走って食べた さつまいも おとなりさん かきをたくさん ありがとうさん 堤 杏奈	スポーツの 秋というけど 部屋こもる かきのたね つるんとすべつて 食べずらい 谷川 結臥
--	--	--	---	---



この絵は、MOA美術館 第28回岡崎児童作品展において愛知県知事賞を受賞しました。描いたのは1年の加藤淳心さん。『ぞうのふじこさん だいすき』と題されたこの絵は、審査員の方からも「1年生らしい感性で描いた素晴らしい作品です。柵の外の人物もよく描けていて、実にほのぼのとした、かわいい絵」という講評をいただきました。

現在、各学年各学級では読書感想画の制作中です。この活動も自己表現力を育てるものです。絵を描きたいと思う場面をイメージし、自分なりの表現を楽しむ心が大切です。秋という季節は、想像力を伸ばすのには最適の季節です。本を読んだり絵を描いたり、俳句を作ったりと、子供たちの想像力と表現力を育てる活動を充実させていきます。